

## 水力地點ノ説明

順位一、〇〇七 宗檜川合流以下ヲ利用セントスルモノニシテ取入口ニ堰堤ヲ築キ水位ヲ約五尺高メテ左岸ニ取入レ隧道延長約四〇〇間、開渠延長約二、三〇間トス。本地點ハ用水ニ關係ナキモ流木盛ナルヲ以テ之カ流下ニ對シ相當ノ方法ヲ講スルヲ要ス。利用水量ハ順位二五四測水所ニ於ケル調査ノ結果ニヨリテ推定セリ(本地點ハ南海鐵道株式會社ニ許可)

## 第六章 淀川水系

### 第一節 概説

本流域ハ近江、山城、攝津、河内、伊賀及丹波ノ六箇國ニ跨リ東ハ美濃、伊勢ノ國境ヨリ西南大阪灣ニ至ル地域ニシテ其ノ面積約五〇六方里ヲ占ム。流域ノ東部ハ鈴鹿山脈ニシテ最モ高ク西ヲ繞ルモノハ中國山脈ノ支脈ニシテ神崎、加古及由良ノ各水系ト界シ其ノ餘勢ハ近江若狹ノ國境ニ走リテ本流域ノ北部ヲ劃ス南ハ三畝山脈、鈴鹿山脈ヨリ岐ノ西ニ走リ其ノ末梢ハ和泉山脈トナリテ以テ吉野川水系ト分水セリ。地勢東北ニ高ク西南ニ向ヒテ傾斜シ其ノ中

間南北ニ連互セル比叡笠置ノ二山脈ニ依リテ之ヲ三箇ノ流域ニ分ツ、而シテ其ノ最高地ハ鈴鹿山脈ト比叡山脈及鈴鹿山脈ト笠置山脈トノ中間ヲ占ムル地域ニシテ前者ハ近江ト山城ノ東南部ヲ包括シテ琵琶湖竝宇治川ノ流域ヲ形成シ後者ハ伊賀及山城ノ東南部ヲ抱擁シテ木津川流域ヲ成ス又比叡山脈ノ西方ニ於テ中國山脈ノ東端分裂起伏シ稍急峻ナル山地ヲ成セルモノニ桂川流域アリ。以上三流域ノ中琵琶湖竝宇治川ノ流域ハ水力利用上最有望ナル區域ニシテ大水力地點ニ乏シカラナレトモ是等ノ水力地點ハ殆ト水利使用許可濟ニシテ將來利用開發シ得ヘキモノハ何レモ其ノ利用馬力數小ナルヲ以テ本調査ニ於テハ主トシテ木津川、桂川ノ二流域ニ就テ之カ調査ヲ行ヒタリ。而シテ琵琶湖竝宇治川流域内ニ於ケル許可水力地點ノ總數ハ二六箇所ニシテ其ノ馬力數ハ實ニ一五六、一二八馬力ヲ算ス

### 第一節 桂川

一、流域 地形 本川ハ淀川ノ支流ニシテ其ノ流域ハ丹波國北桑田郡、船井郡、南桑田郡ノ大部及山城國愛宕郡ノ一部ヲ占メ京都平野ノ北西ヲ圍繞シテ面積五七五七方里ヲ

占ム。流域内ノ地勢ハ中流部ニ於テ地藏山(九四七米)愛宕山(九二四米)等ノ諸峰群立シ部分的ニ急峻ノ地域有リト雖水源ニ於ケル分水嶺ノ九七〇米ヲ最高トシテ以下數百米ナル山地多ク地勢ハ概シテ急ナラス、船井郡園部町ヨリ下流ハ田圃遠ク開ケ丹波山城ノ國境ナル嵐峽附近ニ於テ山勢相迫レルモ其ノ下流ノ地域ハ茫漠タル京都平野ヲナス地質 龜岡町ノ西北部ニ於ケル花崗岩ノ僅少ナル區域ヲ除キ殆ト全部秩父古生層ヨリ成ル

林野狀態 上流ヨリ耕地稍多シト雖流域全體ヨリ見レハ其ノ約五ば一せんとニ過キスシテ殆ト全部ハ山林ナ

地目面積表

河川名	地目		山林地				合計
	耕地	原野	針葉樹林	闊葉樹林	針闊混	計	
桂川	面積(方里)	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇
	面積百分率	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇
同	面積(方里)	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇
	面積百分率	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇

リ其ノ内最多キハ闊葉樹林ニシテ流域中之ヲ見サル處ナク特ニ其ノ狀態ノ良好ナルハ本川最上流部ニシテ檜、杉等ノ老樹ニ富ミ北方分水嶺附近ニ於ケル樹林之ニ次ク針葉樹林ハ松樹ヲ主トスルモ樺、梅等ノ産亦多ク黒田、弓削、周山

及山國ノ各村ニアリテハ杉、檜ノ植林盛ニシテ其ノ發育極メテ良好ナリ

氣象狀態 雨量ハ京都平野ニ於テ一、六〇〇耗内外ニシテ山間部ニ至ルニ從ヒ漸次増加シ二、〇〇〇耗内外ニ達ス。氣温ハ山間部ニ於テ平均一四度内外ナリ

二、河川狀況 水源ヲ北桑田郡黒田村大字廣ヶ原ニ發シテ先ツ南ニ向ヒ大布施ヨリ西ニ折レ灰屋川、小鹽川等ノ小流ヲ合セテ漸次西南ニ向ヒ周山ニテ右支弓削川ト合シ西ニ轉シ殿田ヨリ南ニ迂廻シ保津川トナリテ東南ニ向ヒ清瀨川ヲ合セ京都平野ヲ南流シテ鴨川ヲ容レ納所村ニ於テ宇治川ニ注ク。此ノ流路約二九里ナリ

上流部ハ概ネ緩流ニシテ諸處ニ深溪ヲナセル所アルモ概シテ谷稍開ケ兩岸ノ山勢急峻ナラス山國村地内ハ土地最開ケ良田多シ周山村魚淵附近ニ於テ谷稍迫リ屈曲ニ富ミ流水稍急ナルヲ見ルモ以下耕地ノ間ヲ緩流シテ下宇津ヨリ天若ニ至ル區間ハ極メテ屈曲多ク水力利用上最有望ナル區域ニシテ兩岸ハ岩盤露出シ絶壁多ク流下勾配ハ平均一九〇分ノ一ナリ、之ヨリ下流ハ耕地ノ間ヲ緩流シ八木附近ヨリ平野大ニ開ケ灌漑ノ利甚タ多シ、保津川ニ至リテ所謂嵐峽ノ急流ヲナシ下リテ茫漠タル京都平野ヲ縫ヒ淀川

ニ至ル

河床ハ上流ヨリ概ネ砂礫ニシテ急湍ヲナセル所ニ於テ岩盤ヲ見ルノミナリ而シテ出水ニ際シテハ洪水位高ク周山附近ニ於テ約二〇餘尺ニ達スルモノアレトモ河床ノ移動變化スルコト割合ニ少シ

桂川流量表

順位	番順位	河川	測水所	面積	流量				流域一方里當流量				
					年次	最大	平水	低水	最小	最大	平水	低水	最小
二五五	五六	桂川	京都府北桑田郡周山村周山嶽ノ下	二七〇	大正八年 大正九年 大正十年 大正十一年 平均	一四七〇 一八九〇 一六五〇 二二三〇 二二三〇	一五二 一〇三 一五五 二二五	一五 一五 一五 一五	一四 一四 一四 一四	一六 一七 一七 一七	一六 一七 一七 一七	一六 一七 一七 一七	一六 一七 一七 一七

三、水利及治水

本川及支流弓削川ノ沿川ニハ多クノ水田連リ水力利用區域ノ上流ニ於ケル水田反別約八百餘町歩ニ達シ此ノ内溪流ヨリ灌漑スルモノ少カラサレトモ其ノ大半ハ本川及支川ヨリ用水ヲ引用ス然レトモ水力利用ノ範圍内ニ於ケル是等ノ灌漑用水取入口ハ僅ニ五箇所此ノ反別一四〇餘町歩ニシテ毎年五月中旬ヨリ九月中旬迄ノ期間ニ於テ本川ノ流水ヲ引用ス

水力ニ利用シ得ヘキ範圍ハ周山村大字周山ヨリ世木村大字殿田ニ至ル約六里ノ間トス

本川ノ湧水期ハ夏季竝初冬ノ頃ヲ普通トシ春季ニ高水多ク冬季ハ稍低水ニ近キ流量ヲ有シ夏季ヨリ初冬ニ至ル間ニ於テ最大、最小流量ヲ生ス

流材ハ灌漑期ヲ除キテ隨時ニ行ハレ其ノ數量多シ而シテ之カ運任ニハ管流ヲ行フコトナク専ラ筏ニ組ミテ流下スルモノニシテ筏ノ大サハ幅二間長サ三五間ナリ其ノ流下區域タル黒田村大字廣ヶ原ヨリ山國村大字下ニ至ル間ニハ數多ノ開閉堰ヲ設ケ冬季湧水期間中ハ概ネ之ヲ利用シ大字下ヨリ下流ニ於テハ自然流下ニヨリ嵯峨驛ニ至リ陸揚シテ汽車積トナス。今嵯峨材木株式會社ノ調査ニ係

最近十箇年間ニ於ケル流材數量ヲ示セハ大略左ノ如シ

年次	流下 鼻數	材積(才)			合計
		杉	檜	松	
大正元年	二七三	五、七三三、〇〇〇	一、〇五二、〇〇〇	二、二二五、〇〇〇	八、九五三、〇〇〇
大正二年	二、〇〇五	五、七五〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	一、九七六、〇〇〇	三、四三三、〇〇〇
大正三年	二、〇六〇	六、三三三、〇〇〇	八、三三〇、〇〇〇	一、七七五、〇〇〇	八、八四七、〇〇〇
大正四年	二、一〇九	六、六三三、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	三、一八〇、〇〇〇	七、八一三、〇〇〇
大正五年	二、二九	六、五九七、〇〇〇	一、〇四六、〇〇〇	二、一八〇、〇〇〇	九、八二五、〇〇〇
大正六年	三、〇三三	九、三三三、〇〇〇	一、三三三、〇〇〇	二、七五〇、〇〇〇	一三、三八六、〇〇〇
大正七年	三、〇六一	八、八四四、〇〇〇	七、九〇〇、〇〇〇	一、五九六、〇〇〇	一、〇六六、〇〇〇
大正八年	二、八六六	七、九一〇、〇〇〇	一、六六六、〇〇〇	三、三三三、〇〇〇	一、三二四、〇〇〇
大正九年	二、八六九	八、九一〇、〇〇〇	一、〇三三、〇〇〇	二、三三三、〇〇〇	一、三三三、〇〇〇
大正十年	二、三三六	六、三三三、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	二、三三三、〇〇〇	九、〇六六、〇〇〇

桂川水力地點表 落差ニ\*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	水路長	流域面積	發電率	年平均馬力數	等級
一〇〇八	桂川	番外	京都府北桑田郡周山村 周山森ノ下	同 郡宇津村 本葛ヶ谷	湧水 六一 低水 一二七 平水 二四二	九〇	六〇九	二、〇〇〇	二、二七〇	九三三	一、八五	乙
一〇〇九	同	一	京都府北桑田郡宇津村 下宇津淨井	船井郡世木村 中街岩	湧水 七八 低水 一六九 平水 三三九	一七五	一、五一一	二、八〇〇	一、七五五	九三三	一、五二五	甲

漁業トシテハ鮎ノ産多ク舟楫ハ下流ニ行ハルモ水力利用ニ屬スル範圍内ニハ其ノ關係ナシ又上流黒田村ニハ京都電燈株式會社ノ經營セル水力地點一アリ

四、水力地點 選定水力地點數二、其ノ平水時ニ於ケル馬力數八、八〇九トス。今之ニ許可水力地點支流ノ地點ヲ除クヲ加算スルトキハ本川ニ於ケル總水力地點數三、其ノ馬力數一〇、一四一ヲ算ス

水力地點ノ説明

順位一〇〇八 主トシテ河川ノ屈曲ヲ利用スルモノニシテ右岸ニ取入レ隧道延長約一〇五〇間開渠延長約九五〇間トス。灌漑用水二箇所(此ノ反別二二町步)ニ對シ水量三個ヲ分與スルモノトシテ利用水量ヲ決定セリ

順位一〇〇九 右岸ニ取入レ隧道延長約一、六〇〇間開渠延長約一、三〇〇間ヲ開鑿ス灌漑用水ノ關係ハ右岸ニ二箇所此ノ灌漑反別一六町步左岸ニ三箇所此ノ反別四五町步アルヲ以テ水力利用ニ際シテハ是等ニ對シテ總計一〇個ノ水量ヲ分與スルモノトシテ利用水量ヲ決定セリ

以上二地點トモ流筏盛ニ行ハルヲ以テ利用ニ際シテハ是等ニ對シ相當ノ設備ヲ講スルノ要アリ

### 第三節 木津川

一、流域 地形 本流域ハ琵琶湖流域ノ南部ニ位シ伊賀ノ全部及大和山城ノ一部ニ跨リ其ノ形南北ニ長ク長方形ヲ呈シ面積一一〇方里ヲ占ム。木津川ハ其ノ上流ニ於テ名張伊賀ノ二川ニ分岐ス前者ハ南分水嶺ニ後者ハ東分水嶺ニ發源スルモノニシテ即チ名張川ハ名張町ニ於テ比奈知川青蓮寺川及宇陀川ヲ合セテ西北ニ流下シ伊賀川ハ上野町附近ニ於テ柘植川服部川長田川ノ三川ヲ合セテ西流シ此ノ二川ハ流域ノ北西隅ニ於テ合流シ木津川ヲ形成シテ京都平野ニ出ツ。流域ノ南部ハ鈴鹿山脈及三畝山脈ニシテ最高シ而シテ宇陀川ハ長谷街道ニ沿ヒテ谷稍廣シト雖青蓮寺川比奈知川ハ水源ニ高見山(二四九米)三峯山(一、

二三六米等ノ高峯ヲ有シ沿川ニハ兜山(九二〇米)具留尊山(二〇三八米)國見山(八六〇米)等ノ起伏セルモノアルヲ以テ其ノ流域内ノ地勢概シテ急峻ナリ而シテ名張町附近ハ土地最開ケ海拔約二〇〇米ノ盆地タリ

本流域ノ東部ヲ劃スル鈴鹿山脈ハ其ノ高サ概シテ低ク長田川ノ水源尼ヶ嶽ノ九七八米ナルヲ最高トシ服部川ハ伊賀街道ニ柘植川ハ大和街道ニ臨ミテ水源淺ク上野町附近ハ海拔約一四〇米ニシテ坦々タル平野ヲ形成ス。名張川伊賀川ハ本流域ノ西ヨリ北ヲ圍繞セル笠置山脈ニ沿テ流下シ地勢河岸ニ急峻ナルモ漸ク三〇〇米乃至五〇〇米ノ丘陵ニシテ木津川流域ハ同川カ笠置山脈ヲ横斷スル附近ニ於テ山勢稍急峻ナルモ須臾ニシテ谷開ケ京都平野ニ合ス

今本流域ニ於ケル面積ヲ各河川毎ニ分類スレハ左ノ如シ

- 名張川 四一四八方里
- 比奈知川 六〇一方里
- 青蓮寺川 六七四方里
- 宇陀川 七一方里
- 伊賀川 三五八五方里

長田川

一四七四方里

服部川

六五二方里

栢植川

一〇六四方里

地質一名張川流域ハ概ネ片麻岩質ヨリ成ルモ宇陀川青蓮寺川比奈知川ノ中流部ハ安山岩ニシテ下流名張川ノ兩岸於テハ第三紀層花崗岩等錯綜ス。伊賀川流域ニ於テ上野盆地ヲ中心トシテ沖積層第三紀層等最廣ク存シ長田川服部川ニハ多少ノ片麻岩質ヲ認ルモ栢植川ノ如キハ悉ク第三紀層ヨリ成レリ。伊賀川本流及木津川ノ兩岸ハ概ネ花崗岩ニシテ片麻岩之ニ介在シ伊賀川ノ右岸一帯ニハ狹長ナル第三紀層アルヲ見ル。

林野狀態 本流域ニ於ケル森林狀態ハ概シテ良好ナラス。名張川流域ヲ見ルニ比奈知川ハ下流ニ潤葉樹林多ク青蓮寺川ハ下流ニ植林行ハシ其ノ狀態比較的良好ナルモ二川トモ其ノ中流部ハ概ネ草生地ニシテ水源部ニ至リテ潤葉樹林ノ稍繁茂ナルヲ見ル。宇陀川ハ上流ヨリ谷開ケ森林少キモ中流室生村地内ニ於テハ植林盛ナリ。名張川沿岸ハ概ネ針潤混濁疎林ニシテ丘陵ニハ畑地多ク植林ハ月瀬附近ニ於テ多少之ヲ見ル。伊賀川流域ハ水源部ハ山腹ニ潤葉疎林ノ繁茂セシモノアルノ外概ネ草生

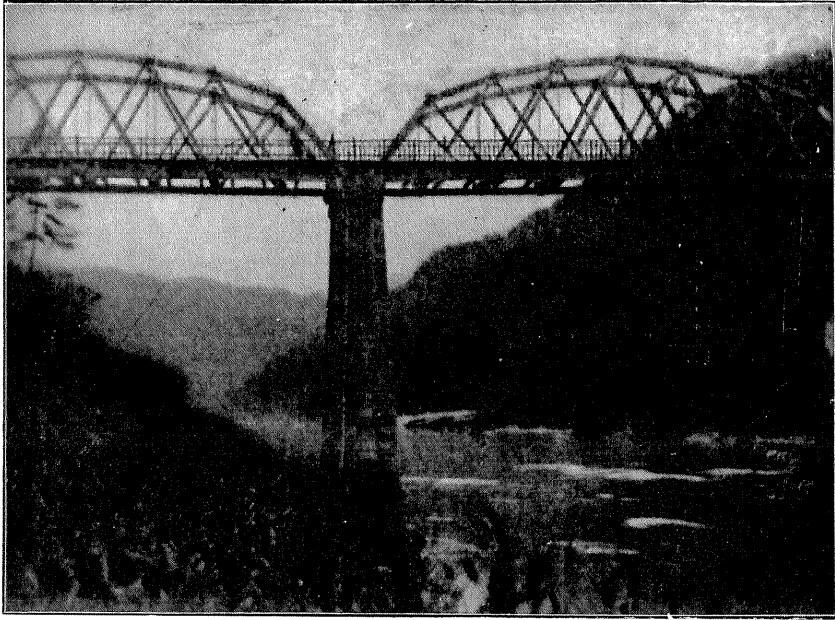
地ニシテ稍植林ノ行ハルルハ長田川流域ノミナリ

地目面積表

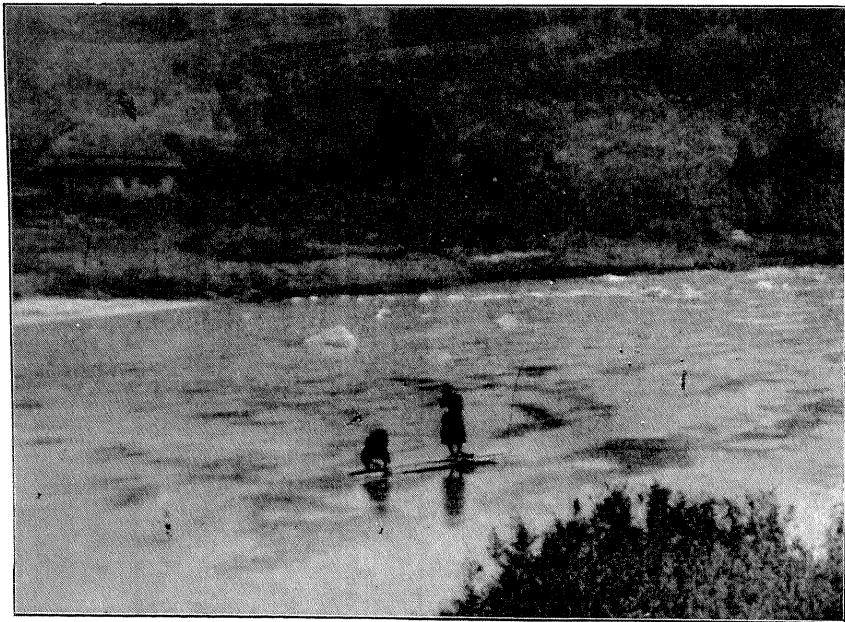
河川名	地目		山林地				合計
	耕地	原野	針葉樹林	潤葉樹林	針潤混濁樹林	計	
名張川 <small>(月瀬湖水面以上)</small>	面積(方里)	二七	二〇六	八四	一五	三〇六	三〇六
木津川 <small>(原野入口以上)</small>	面積(方里)	一五	三〇	三三	二	六八	一〇〇
伊賀川 <small>(阿木山頂部以上)</small>	面積(方里)	二七	三六	一〇	一	七四	一〇〇
	同百分率	二七	三〇	三三	二	六八	一〇〇
	面積(方里)	二七	三六	一〇	一	七四	一〇〇
	同百分率	二七	三〇	三三	二	六八	一〇〇
	面積(方里)	二七	三六	一〇	一	七四	一〇〇
	同百分率	二七	三〇	三三	二	六八	一〇〇

氣象狀態

雨量ハ下流水津町附近ニ於テ一、四〇〇耗内外ヲ保チ上流ニ進ムニ從ヒ漸次増加シ伊賀川ニ於テ一、五〇〇耗宇陀川ニ於テ二、〇〇〇耗内外ヲ算シ比奈知川ニ於テハ最大二、六〇〇耗内外ヲ示ス。氣温ハ下流部ニ於テ平均一六度内外ニシテ山間部ニ至リテ漸次低下シ伊賀川流域ニ於テ一三度名張川流域ニ於テハ一二度内外ニ達ス。二、河川狀況 名張川ハ其ノ源ヲ大和國宇陀郡御杖村ニ發シテ北ニ向ヒ伊勢國一志郡ノ一部ヲ貫流シ伊賀國比奈知村ニ至リテ俄カニ西ニ轉シ夏見ニ於テ左支青蓮寺川ヲ合セ名張町ニ至ル之迄ヲ比奈知川トイフ、此處ニ於テ左支宇陀川ノ水ヲ合セテ名張川ト稱セラレ之ヨリ西北ニ向テ



淀川水系名張川月瀬水所



淀川水系名張川月瀬水所(上流)

大彎曲ヲ畫キツツ名張町附近ノ平地ヲ過キ葛尾ヨリ北  
向ニ廣瀨附近ヨリ大和伊賀ノ國境ヲ流シ漸次西ニ轉シツ  
ツ月瀨ノ続流トナリ山城國相樂郡大河原ニ至リテ右支伊  
賀川ト合シ初メテ木津川トナル  
木津川ハ大河原以下西ニ流レ布目川白砂川和東川等ノ  
小流ヲ合セツツ笠置ヲ過キ木津町ヨリ西北ニ轉シ京都平  
野ニ出テ宇治川ニ合ス

伊賀川ハ柘植服部ノ二川ニヨリテ伊賀東北部ノ諸水ヲ  
集メ波多野ニ至リ左支長田川ト合シ西流シテ大河原ニ至  
リ木津川ニ合ス

比奈知川ハ上流ヨリ五里即チ長瀨ニ至ル間ハ谷稍開ケ  
兩岸低ク緩ナルモ長瀨ヨリ上比奈知ニ至ル約一里ノ間ハ

名張川流量表

順位	舊順位	河川	測水所	面積	流量				流域一方里當流量					
					年次	最大	平水	低水	濁水	最小	最大	平水	低水	濁水
二五六	五七六	名張川	奈良縣添上郡月瀨村 長引川原	三九九〇	大正八年 一〇、四〇〇	四三九	三三三	一一三	一一〇	二三八	一一〇	七六	三三	二六
					大正九年 一七、一〇〇	四八	三三三	二二〇	二二五	四二九	一〇五	八四	六〇	五四
					大正十年 二二、三〇〇	六〇〇	三〇〇	二一〇	二一五	五三〇	一五八	一〇〇	五三	四一
					大正十一年 六、九四〇	四六	三三九	一一二	一一三	一七〇	一一四	八七	四八	〇八
					平均	—	—	—	—	—	—	—	—	—

深ク河岸屹立シ頗ル急流約五〇分ノ一ヲナス。河床概  
ネ岩盤ニシテ水力利用上最有望ノ區域ナリトス

名張川ハ名張町ノ附近ニ於テ兩岸開ケ平野展開セント  
モ葛尾ヨリ大河原ニ至ル約六里ノ間ハ谷迫リ岸高ク且急  
峻ニシテ諸所ニ絶壁ヲ有シ河床概ネ岩盤ヨリ成ル。流下  
勾配ハ平均二二〇分ノ一ニシテ稍緩ナレトモ屈曲多キヲ  
以テ隨所ニ其ノ水力ヲ利用スルコトヲ得

木津川ノ大河原ヨリ笠置ニ至ル約二五里ノ間ハ勾配平  
均四六五分ノ一ニシテ兩岸岩盤露出シ峻峻ニシテ諸所ニ  
絶壁ヲナスモノアリ河床概ネ砂礫ナルモ之カ移動變化ス  
ルコト寡ク水力ニ利用スヘキハ此ノ範圍ナリトス。笠置  
以下木津町(約三五里)ノ間ハ河幅廣ク流下勾配大略一、二〇

○分ノ一ニシテ河床ニ砂礫多ク低落差トシテモ利用ノ見込ナシ

伊賀川ノ上流ナル柘植服部ノ二川ハ共ニ水源淺ク長田川ハ上流稍急ナルモ水量ニ乏シ。伊賀川ハ波多野ヨリ下流約一里ノ間ニ於テ稍急流ヲナセル所アルモソレヨリ下流ハ概ネ緩ニシテ河床岩盤稍多シ

本支川トモ常時ニ於テハ水色清澄ナルモ出水時ハ甚シク濁濁スルヲ普通トシ洪水位ハ名張川月瀬附近ニ於テ約二五尺木津川笠置橋ニ於テ約三二尺ニ達ス

名張川ノ濁水期ハ夏季並初冬ノ頃ヲ普通トシ春季ニ高水多ク冬季ハ稍低水ヲ有シ夏季ヨリ初冬ニ至ル間ニ於テ最大最小流量ヲ生シ其ノ變化極メテ急ナリ

名張川、木津川水力地點表 順位ニ(一)ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	巨水長路	面積	發電率	年平均馬力數	等級
1010	名張川	一	三重縣名賀郡藏持村 藏田尻	奈良縣 磯山郡波多野村 清水谷	濁水 一四一 低水 三五四 平水 三六三	八五	一三三〇 二二九六 三二四五	二、五〇〇	二、九三二	一〇〇・〇 九四・五 八五・三	一、三三〇 一、三六四 一、二五三	乙
1011	同	二	京都府相樂郡高山村 田山三石	同郡高山村 田山中谷	濁水 一九四 低水 三五一 平水 五〇〇	五三	一一四一 二〇六五 二一九四二	二、五〇〇	三、〇七三	一〇〇・〇 九四・五 八五・三	一、一八一 一、二五一 一、二七〇	丙

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	巨水長路	面積	發電率	年平均馬力數	等級
1012	木津川	三	京都府相樂郡大河原村 北大河原(ミツタニ)	同郡笠置町 北笠置中道	濁水 三七五 低水 六八〇 平水 九七〇	三〇	一、二四九 二、二六四 三、二三〇	二、五〇〇	七、六二二	一〇〇・〇 九四・五 八五・三	一、三三九 一、三九三 一、二七五	丙

シ得ヘキモノハ二地點ニシテ其ノ馬力數六三六七ナリ。

今之ニ許可水力地點支流ノ地點ヲ除クヲ加算スルトキハ本川ニ於ケル總水力地點數七其ノ馬力數一七九八一ニ達ス

水力地點ノ説明

順位一、〇一〇 名張川ノ右岸ニ取入レ隧道延長約一、四〇〇間開渠延長約一、三〇〇間ヲ開鑿ス

順位一、〇一一 名張川月瀬橋ノ下流ニ取入口ヲ設ケ右岸ニ沿ヒ開渠延長約一、五〇〇間、隧道約一、〇〇〇間ヲ開鑿ス

順位一、〇一二 木津川ノ右岸ニ取入レ開渠約一、五〇〇間、隧道約八〇〇間ヲ築造ス(木津川電氣株式會社ニ許可)

以上三地點ニハ用水悪水ノ關係ナク流水アルモ少量ナルヲ以テ流量多キ場合ニ於テ之ヲ流下セシムルヲ可トス

順位一、〇一二ニハ荷舟ノ流行アルモ之レ亦少量ナルヲ以テ其ノ出發點ヲ本地點放水口以下ニ變更セシムルモノトス

三、水利及治水 灌溉用水ハ名張町附近ニ最多キモ比奈知川、名張川及木津川ノ水力利用ニ屬スル範圍内ニハ全ク之レナシ、材木運搬ノ方法モ比奈知川、伊賀川ハ全部陸送シ名張川ハ往時流筏盛ナリシモ近年道路改修ニ伴ヒ大ニ其ノ量ヲ減少シ毎年一、二月頃ヨリ翌年四月頃迄ノ間ニ於テ漸ク二、三十鼻ヲ流下スルニ過キス荷舟ハ木津川ニ於テ大河原ヨリ下航スルモノアルモ寧ロ笠置以下ヲ主トシ木津町ノ上流ニ於テ奈良市水道ノ取入口アルモコレ亦水力利用ノ區域外ニ屬ス。漁業ハ鮎ヲ主トシ其ノ産少シトセス

四、水力地點 選定シタル水力地點數三、其ノ平水時ニ於ケル馬力數九、五九七ニシテ其ノ中一箇地點ハ本調査期間中水利使用ヲ許可セラレタルヲ以テ將來ニ於テ利用開發

第七章 由良川水系

一、流域 地形 本流域ハ丹波北部ト丹後東部トニ跨リ東西ニ長ク長方形ヲナシ面積一三〇方里ヲ占ム。四面山嶽ヲ以テ圍繞セラレ南ハ中國山脈ニシテ稍高ク海拔七〇〇米内外ノ連嶺ニヨリテ桂川、加古川ノ二流域ト界シ東ハ其ノ支脈丹波ノ西界ヲナシ其ノ主峰タル三國嶽(九五九米)ハ本川ノ水源ナリ更ニ本支脈ハ西ニ走リテ丹波、若狹ノ國界ニ進ミ丹後ニ至リテ止ム、西ハ中國山脈ヨリ分岐セル連山ニシテ丹波、但馬ノ國界ヲナシ山勢一旦伏ストモ但馬、丹後ノ國界ニ於テ再ヒ隆起シテ河口ニ達ス、而シテ本川ノ流域ハ概ネ山嶽、丘陵ノ占ムル所トナレルモ山勢緩ニシテ溪間稍開ケ諸處ニ平地アリ

地質 主トシテ秩父古生層ヨリ成リ但馬、丹後ノ國界ニ花崗岩ヲ露出ス

林野狀態 中流ヨリ下流部ニ於ケル山林ハ多ク自然生